

美

長く伸びた浮棧橋を歩いてゆく
両側に広がる海面の深い紺

(私ではだめなのかもしれない)

一人乗りのディンギーが
白い帆に風を受けて傾いている

(必要とされること——その希い)

幸福と、そして、微かな焦燥が漂う
海底に繋がれた細い鎖が揺れる

(しかし・・・私でもいいのかもしれない)

あなたは私の人差指と中指を握る
壊れ物を扱うような軽い圧力

(言い出すことができない)

波、とも、うねり、とも言えぬほどの揺れ
見え隠れする水鳥の影

(甘い苦しみの中を泳いでいる)

人が永遠を求めるのは
生き永らえるためではない、と知った

(ああ、先端が見える)

喜びでも哀しみでもない——
透明な涙というものがある、と知った

(現実の世界が、打ち震えている)

陽光が降りて、水面を転がしている
透き通った球体を

(切子ガラスのような光散乱)

あなたの瞳に映る美

(言い出すことは、とてもできない)

(2013.6.16)